

## 會頭飯島魁先生を悼む

大正十年三月十四日拂曉本會々頭理學博士飯島魁先生腦溢血症を以て千秋ヶ谷の邸に薨去せらる 嗚呼悲しいかな

顧みれば明治四十五年五月初めて本會の設立せられしは實に先生の主唱に係る所にして爾來茲に十星霜を閱し會運漸次隆盛を致し其の基礎の漸く固からんことを至りしは一に先生の周到懇篤なる指導の賜に外ならず而して今後本會が益々健全なる發達を遂げ本邦鳥學の確立を期するに於て尙先生の指導に俟つもの實に尠からず、而るに今や卒然として先生の訃に接す、吾人茫然として其の爲す所を知らざるなり

然れども靜に惟へば本會のさるべき途は將に先生が本會を創立せられたる遺志を學に殉じたる意氣を體し不斷の努力を以て鳥學の發達に貢獻するにあるべし、吾人は誓つて此の一事を以て先生の英靈を安んぜんことを期すべし  
今左に先生の略歴を學界に遺されたる業績の一端を掲げ以て吾等相共に先生の偉業を追懐せん

### 飯島先生履歷

- 明治八年 東京開成學校ニ入り修學ス
- 同 十四年 東京大學卒業理學士ノ學位ヲ受領ス
- 同 十五年 動物學修業ノ爲三年間獨逸國ライプチヒニ留學申付ケラル
- 同 十七年 ライプチヒ大學ヨリドクトルフクロソフグーヴラマギステル、アルチウムノ學位ヲ受領ス
- 同 十八年 理學部講師可相勤事
- 同 十九年 任理科大學教授
- 同 二十四年 明治二十年勅令第十三號學位令第三條ニ依り茲ニ理學博士ノ學位ヲ授ク
- 同 二十六年 動物學第二講座擔任ヲ命ズ

同三十二年 萬國學術上ノ出版目錄編纂委員ヲ命ズ

同三十四年 理學文書目錄委員會委員被仰付

同 年 御用有之歐米各國へ被差遣

同三十五年 歸朝

同 年 陞叙高等官一等

同三十七年 補帝國大學理科大學附屬臨海實驗所長

同三十九年 帝國學士院規定第二條ニ依リ勅旨ヲ以テ帝國學士院會員被仰付

同四十一年 御用有之比律賓諸島及蘭領印度被差遣

同四十二年 歸朝

同 年 動物學第二講座擔任ヲ免ジ動物學第一講座擔任ヲ命ズ

同四十三年 櫻井東京帝國大學理科大學長英伊兩國出朝不在中學長代理ヲ命ズ

同 年 叙勳二等授瑞寶章

大正二年 叙從三位

同 年 東京帝國大學評議員ヲ命ズ

同 三年 賜本俸一給俸

同 八年 同右

同 九年 叙勳一等

同 年 學術研究會總會員被仰付

同 十年 特旨ヲ以テ叙正三位

主要なる論文目録

(一) 寄生蟲類に關するもの

1896. Notice of New Hemitelmeida from Sagami Bay, II. Zool. Anz., No. 604.  
 1898. The Genera and Species of Koenelidae. Annot. Zool. Japon., Vol. II.  
 1901. 日本産玻璃海綿研究第一報、理科大學紀要第十五卷  
 1902. 第二報、同上 第十七卷  
 1903. 第三報、同上 第十八卷  
 1904. 第四報、同上 同上 右

(二) 寄生蟲類に關するもの

1887. 本邦人に寄生する肝臟デストマの性質を研究し其結果を記述す  
 1887. 歐洲の成トリクテラダ(渦蟲類)の脱  
 1888. 裂頭條蟲の日本人體中に生ずる原因研究  
 1889. 本邦人の眼、尿道其他胃潰瘍中より出でたる條蟲の一種に就き實驗(村田共著)  
 1894. 一新人體條蟲に就いて(栗本共著)  
 1904. 人體に寄生する新條蟲の幼蟲に就いて

(三) 鳥類に關するもの

動物學雜誌掲載の分

表	題	卷數	頁數
1	鳥獸の採集及び刺殺		二六〇四八、七三
			一〇四、一三三

2 本邦産の雀科

3 發育學一斑「鳥類に就きて」

4 日本鳥類の分布に付き

5 鳥雜記

6 カラムグドリに就きて

7 鶉の話

B Nippon no Tori Mokuroku.

9 日本の雁鴉(板鴨類)

10 ヤマガラの新種に就て(英文)

11 小笠原鳥産カラスバト一種に就きて(英文)

12 イハミセヤレイに就て(英文)

13 和鳥啓蒙(スマイネゲル氏)

14 臺灣巡回談(鳥類の記事あり)

15 鶯及鳩・鴉類に関する話

16 増殖極鳥の記(第六版附)

17 樺太の鳥類に就て

1	126、169
2	210
3	162、214
4	250、289
5	333、379
6	423、458
7	511
8	197、256
9	314、183
10	323、272、309
11	357、401
12	408
13	348、493
14	第卅一、卅二、卅四
15	卅五、卅六、卅七號
16	444
17	445
18	624
19	626
20	835、413、452
21	277、121、169
22	213、386、425
23	9、46、163
24	132、6
25	166、0
26	171、3
27	193、6

理科大學紀要掲載の分(鳥類に關するもの)

Nokan on a Collection of Birds from Yamashiro. 第五卷 第一編 頁一〇五—一二八 第十二版附(一八九一年)  
「鳥」掲載の分

本邦鳥類の研究に就いて 第一卷第一號一頁

主なる著書左の如し

保護鳥圖譜 明治三十一年三月十七日發行

増訂保護鳥圖譜 明治三十八年一月二十六日發行

動物學提要 大正七年三月八日發行(再版九月三日)

今左に飯島先生の發表せられし鳥類及び先生の姓を有する種類を列記せば

1. *Parus varius owstoni* Iijima.

オーストンガラ

*Parus owstoni* Iijima. 動物學雜誌、第五卷、四四五頁(明治二十六年)

產地、伊豆三宅島及び八丈島

2. *Craphopastanus soemmeringi* Iijima (Dresser).

クミンロヤイトリ

*Phaethon iijima* Dresser, Ibis, 1902, p. 656.

產地、九州中部以南

3. *Acanthopneuste iijima* Stejneger.

イトイロトビ

*Acanthopneuste ijima Stejn.*, Proc. U. S. Nat. Mus., XV, p. 372(1892).

產地、伊豆七島

4. *Riparia riparia ijima* (Jönberg).

シヤウドウツバメ

*Chrysola riparia ijima* Lönnb. 理科大學紀要第廿三冊第一四篇三八頁 (一九〇八年)

產地、樺太、千島、北海道、本州、朝鮮

5. *Zosterops palpebrosa ijima* Kuroda.

イイヅメシロ

*Zosterops palpebrosa ijima* Kuroda 「鳥」第一卷、第五號後附四頁、第六圖版第三圖及挿繪第二圖

產地、北九州、對馬、濟州島、南朝鮮、鬱陵島

6. *Emberiza olivacea ijima* Stejneger.

イイジマホノシロ

*Emberiza olivacea ijima* Stejn., Proc. U. S. Nat. Mus., XVI, p. 537(1893).

產地、對馬、濟州島、南朝鮮



*J. Gima*

故會頭理學博士飯島魁先生肖像